

第1回 練馬区教育振興基本計画懇談会要点記録

日 時 平成23年8月29日(月) 18:00~20:00

場 所 本庁舎19階 1902会議室

出席者 廣嶋座長、風間委員、渡邊委員、石橋委員、眞瀬委員、木下川委員、
高井委員、田中委員、玉井委員、宮崎委員、伊藤委員、斉藤委員、
佐藤委員、長井委員、真島委員

欠席者 小林副座長

(事務局) 教育長、学校教育部長、新しい学校づくり担当課長、学務課長、施設給食課長、教育指導課長、総合教育センター所長、統括指導主事(代理)、庶務課長、庶務係長、同係職員1名、ジャパン総研3名

案 件

- (1) 練馬区教育振興基本計画骨子について(案)
- (2) 練馬区における教育をめぐる現状について

配布資料

- | | |
|--------------------------|------------------|
| (1) 練馬区教育振興基本計画骨子について(案) | ・・・資料1 |
| (2) 練馬区における教育をめぐる現状について | ・・・資料2-1、2-2、2-3 |
| (3) 練馬区教育振興基本計画懇談会委員名簿 | ・・・資料3 |
| (4) 練馬区教育振興基本計画懇談会設置要綱 | ・・・資料4 |
| (5) 21世紀の練馬区の教育を考える懇談会答申 | ・・・資料5 |
| (6) 平成23年度練馬区教育委員会教育目標 | ・・・資料6 |
| (7) 練馬区長期計画(抜粋) | ・・・資料7 |

1. 委員委嘱

河口教育長より委嘱状交付

2. 教育長挨拶

「練馬区教育振興基本計画懇談会」の発足にあたって

【教育長】

こんばんは、大変お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日は第1回練馬区教育振興基本計画懇談会を開催させていただきました。練馬区教育委員会では平成15年3月に21世紀の練馬の教育を考える懇談会から答申・提言を頂きました。

それから8年が経過しておりますが、その間、いただいた提言を基に様々な教育施策を行ってまいりました。具体的には小中一貫教育校の開設、中学校選択制度の導入、学校応援団の設置などを実現して、練馬の教育環境を整えて参りました。

さて、それに引き続き、さらにこの先10年を見据えた教育振興計画の策定をいたします。この計画は教育委員会が定めるものではありませんが、計画の策定にあたり、様々な分野の皆様にご意見をいただきたく懇談会を設置いたしました。今、教育は様々な面で注目されておりますが、そういった時代の流れをつかみ、地に足をつけた教育を練馬の地で行い、練馬の子供達に立派な社会人、大人、人間として成長していただくための教育について、この懇談会で皆様のご意見をお伺いできればと思います。これから計画策定にあたり様々なご意見をいただけるようお願いしましてご挨拶といたします。宜しく願いいたします。

3. 委員自己紹介・事務局紹介

4. 座長、副座長選任

事務局一任により廣嶋座長選任、廣嶋座長の指名により小林副座長選任

【座長】

座長という大役を頂きましたが、何分それほど力のある人間ではございません。この会は懇談会ということでもございます。私としましては皆様のご意見を十分頂けるような進行を努めさせていただきたいと思っております。ご協力よろしく願いいたします。

5. 議事

(1) 練馬区教育振興基本計画骨子について(案)

事務局より、資料1に沿って説明

【廣嶋座長】

この件につきましてご質問などありますか。なければつぎの議事に移ります。

(2) 練馬区における教育をめぐる現状について

【座長】

議事(2)の練馬区における教育をめぐる現状についてですが、現状理解や課題把握において共通理解が必要となります。これがないとつぎに進めませんので、よろしく願いします。

事務局より、資料2-1、資料2-2、資料2-3に沿って説明

【座長】

事務局より説明がありました。教育はよく知・徳・体といわれますが、資料2-1は知に関すること、資料2-2は徳に関すること、資料2-3は体に関する説明だと思えます。資料2-1について意見、提言、感想などございますか。

【委員】

問題がA知識とB活用に分けられていますが、これはPISA型の考え方で分けられているのでしょうか。

【事務局】

問題Bは多少意識しているかと思いますが、PISA型といいますと東京都が実施している小学5年生と中学2年生を対象とした学力調査はかなり意識したものだと思います。ここにありますが調査はPISA型のように明確にAとBを分けたものではないと思います。

【委員】

AとBに分ける考え方を知りたいと思いますが、資料はありますか。

【事務局】

実際の問題を見ていただければと思います。また資料の提供をしたいと思います。

【委員】

A問題、B問題の考え方というのはとても大事だと思います。学力を考える時、知識だけではなく応用力や生活に密着した考え方、問題発見、解決能力を学力の中に入れていく必要があると思いますので、設問の考え方をお伺いしました。

【委員】

この調査は国公立や私立とすべてが対象で行われましたか。

【事務局】

公立のみです。

【委員】

私立などを入れると調査結果が変わってくると思いますが、どうお考えですか。

【事務局】

問題Aなどは多少の違いが出るかもしれませんが、実際に調査をしていないのでわかりません。

【委員】

私立の場合、このような調査をすると学校のレベルがはっきりと出てしまうので応じないのではと思います。小学校に比べて中学校のレベルが若干下がっているのは中学受験である程度のが抜けてしまっていることが調査結果に出ていると思われます。小中学校どちらでも家庭学習習慣が身に付かない悩みがあります。現在の子供達は塾通いの時間が長く、また塾に行くことにより勉強したつもりになって、家で勉強しない現象が現れています。塾に行く以外の日さらに個別塾に通い、本来家庭ですべき学習の時間を塾で過ごす子供が増えています。家は誘惑するものが多いため勉強する場所ではなく、塾などの自習室を利用するなどの現状も見受けられます。親も塾にさえ通わせれば子供は勉強していると思っている節もありますので、そのあたりも考え直し、子供達に自分で勉強する意識を持たせるために必要なことを検討すべきだと思います。

【座長】

調査結果から、練馬区の子供達は力があって、頑張っていると思いますので、大きな課題がある訳ではなく、この先、子供達がどうなっていくかを考えると学習意欲や学習習慣が重要な課題かと感じます。

【委員】

テレビなどで学力全国1位など報道されていることがありますが、そういう地域は家庭学習について特に触れず、学校での教育方法が紹介されています。練馬区では学校側で学力向上の努力はされていますか。

【事務局】

具体的には朝読書などはかなり多くの学校が取り組んでおります。授業時数が増えた関係で月曜から金曜の放課後が使えない状況にありますが、その中で学校によっては週1回放課後を利用して学力定着を図る活動をしている学校も増加してきております。学力定着は第一義的には学校の責任ですが、学校だけでは難しいところもありますので、家庭での学習も必要かと思えます。

【委員】

子供を良い学校に入れるには母親も働かなければいけないなどで、子供が一人で家

にいてゲームなどをしてしまい、なかなか勉強できない状況になることもあります。学校は、子供の特性をつかみ放課後、個人的に指導するなどできないのでしょうか。

【事務局】

個人的に指導している学校もあります。時間的に平日の放課後を利用することが難しくなっておりますが実施している学校はございます。あとは長期休業期間などに練馬区すべての小中学校でサマースクールなどの開校による学習指導を行っております。

【委員】

学校の先生は夏休みに補習授業を行うなど、すごく頑張っていると思います。むしろ保護者の意識は、勉強というと塾なのです。学校が補習をしますと言っても塾があるから参加しない、学校の宿題は塾の宿題の後などという環境の中に子供がいますので、親の意識を変えないといけないと思います。

【委員】

都道府県別の学力調査で秋田県がトップになりました。秋田県は低いランキングからトップに上がりましたが、秋田県がどういう方法で学力を上げたのか教育委員会は把握していますか。

【事務局】

これだと特定するのは難しいですが、昨年、練馬区の文教委員会が秋田県を視察した際の資料からは、家庭学習が定着していること、できるだけ個に応じた個別指導に力を入れていることが学力向上の要因だと読み取れます。

【委員】

学校の様子も少し話をします。学力調査で練馬区が平均以上だったことには学校として一定の安堵感はあるのですが、点数にはばらつきがあります。これは学校が指導した結果が出ているわけであり、この結果を検証し高い点数の理由、低い点数の理由なども考え、授業の改善を図るための検討資料として学校は積極的に活用しています。点数は平均で出ていますが色々な構成要素があります。この構成要素によっては学校の授業とは違う要因もあり、家庭環境のてこ入れや学校と保護者の連携も強化していかないと改善は難しいところがあります。

【座長】

意欲や習慣に関わることで先生が手を尽くしている例などありますか。

【委員】

意欲や習慣については、様々な議論があると思いますが、勉強が楽しくなる、学校に行くのが楽しくなることがベースになると思います。学校が楽しくなるために、道徳授業や学級活動の充実を図ることも大切です。もちろん、勉強が楽しくなるには勉強をわかるようにしなければいけないので基礎学力を充実させることが大切であり、現在多くの学校では、朝読書や放課後学習・夏季休業中の補習などの充実に取り組んでおります。

【座長】

学力調査の結果、悪い結果は出ておりませんが、このままでいいのだろうかという意見が沢山でできました。本日、結論は出ませんので次回以降検討していきたいと思っております。道徳の話も出ましたので資料2-2に移りたいと思っております。質問、意見はございませんか。

【委員】

例えば、資料2-2のうちの質問「学校のきまりを守ることは必要か」に、少数ではあるが「必要ではない」と答えています。少数だから良いのではなく、なぜ「必要ではない」と思うのかという理由まで調査はしていますか。

【事務局】

設問数も多いということもあり、各設問の回答理由まで記載する調査にはなっておりません。

【委員】

回答理由までつっこむことで問題点が浮き彫りになると思います。今後、このような調査を実施する際は、是非、そういう調査をお願いします。

【座長】

この種の調査は非常に難しいですね。数字で出さざるを得ないのでこうなりますが。

各設問に課題のある子が数パーセントおりますが、本来、個別に面接をして考えを聞き取るなどの対応をしないと、次のフォローにはならないと思います。委員がおっしゃる通り表面で止まっていると感じます。先ほど自己紹介の中にも今の子供達は昔と違ってきているという意見もありましたが、子供達の規範意識について、いかがでしょうか。

【委員】

時代や環境によって考え方が違うと思います。先生に威厳がなく、友達感覚で接していたりと先生と生徒が友達関係になっている。このあたりの教育力・指導力に問題があると感じます。また、先生自身も雑用が非常に多く授業に取り組めない。モンスターペアレント問題などもあり非常に苦情が多い。学校周辺の騒音など色々問題が多く学校経営が難しい時代になっている。こういう時代にどう子供を教育していくかというのが一番の課題になると思います。教育以前に問題になっているのは交通ルールを守らない子供と親がいるということです。こういう家庭環境にあって子供に教育ができるかと考えると無理だと思います。昔は家族があったが住宅事情などもあり家庭に変化し、崩壊してしまった。女性の就労もあり家庭に親が不在になるケースが多くなってきている。そこで学校がケアをしている訳ですが、根本的に色々な問題提議をして解決していかなければ教育の向上はないと思います。

【座長】

親の規範意識の問題ですか。

【委員】

子供が先生と友達感覚になっているということですが、保護者も先生と友達感覚になっていると思います。保護者が先生に対してため口で会話し、それをどこかで見たり聞いたりしている子供たちは親と同じように友達感覚になっている。家族が崩壊しているという話がありました。それから、休日の過ごし方について家族で旅行などは行きますが、家族で公園で運動するなどの機会が小さい頃から無くなってきている。これにより小さい頃から子供の体力も体育以外で身につかないのかなと感じます。

【委員】

学校はよくやっていると思います。授業をやりながら雑用も多く、今の先生方には頭の下がる思いです。学校教育イコール家庭教育だと思います。家庭で愛情を受けながら育ってきた親が少なくなってきたことにより、親が子供にどう愛情を注げば良いのかわからない家庭が多いのが現状だと思います。非常に難しい問題ですが、学校教育だけ考えても状況を変えていく施策にはならないのではないかと思います。家庭の問題だと思います。

【委員】

親子関係を見ている子供を習い事に通わせることが多く、親と子供と一緒に遊ぶ感覚が少ないと感じます。先生と生徒や保護者が友達感覚という話がありましたが、

保育園においても保護者が先生に友達として話を聞いてほしいという感覚でいらっしゃる方が多いと感じています。昨年度、公立保育園で実施した利用者アンケートで保護者が保育園に求めているものは、サービスを提供してほしい、自分の気持ちを聞いてほしい、自分の大変さを聞いてほしいということであり、自分と子供のことで悩んでいる話というより自分が悩んでいる話を聞いてほしいというような感覚が保護者にあると感じております。これまでの皆さんの話を伺うと幼少期の親子関係をきちんと構築していかないと子供の成長に伴い難しい問題も出てくるかなと感じました。

【座長】

事務局に確認しますが、教育振興基本計画の中に子育て関連施策として、今のような話も提言として盛り込まれても良いとお考えですか。

【事務局】

良いと考えております。

【委員】

子供との距離感を保つのが苦手な方が多いと思います。私も子供を叱り、泣いている子供を置いて出かけるようなことをやった経験もあります。子供がかわいそうに思いますがそういったことをやらなければ子供のためにならないと考えました。自分たちの役割や立ち位置を親がきちんと理解し、子供達にもわかってもらい、先生を敬う、相手側を敬う姿勢を見せることも大切だと思います。PTAなどにおいてみんなで何かを一緒にやる意識がなく、保護者が自分の子供を守るのが当たり前になり、その保護者の利権が侵されると学校に苦情を言うなどの状況もある。それぞれが自分たちの立ち位置を理解したうえでお互いの距離感を大切にし、つながりを維持していくことが必要だと思います。

【委員】

保育園の先生に質問ですが、今の若い母親は仲間を作るのが下手になってきていると聞きますが、今の状況はどうなっているのでしょうか。

【委員】

行事などで一緒に作業するのはまとまりがありますが、その時だけになってしまいます。自分の子供以外の子供を叱れる方が少なく保護者が2・3人単位でグループになっていることが多いです。リーダーシップのある保護者がいるとそのクラスはまとまっていきますが、どちらかという、言わないでおこう、聞かないでおこう、傷つけないでおこうという感覚の方が多いように思います。挨拶はしているがそれ以外の

会話をしている保護者は以前より少ないと思います。保護者は自分に近寄ってこられるのは嫌という感覚があるように思います。

【委員】

そういう親たちに子育ての話合いの場や機会などはありますか。

【委員】

保護者会や少人数グループでの悩みや各テーマに沿って話合いをしたりしていますが、その場だけの話になってしまって日常にはつながりにくい。年間何回か親睦会も開催しますが半分から3分の1程度の出席となってしまいます。子育てについては保護者会やおたよりでお知らせはしておりますが、なかなか難しいです。

【委員】

幼稚園では、送迎で保護者は毎日会いますので、保護者同士が会話をしている光景が見られます。夕方、園庭解放を行っておりますので、その場で会話をしているように思います。ただ、全員ではないと思います。保護者同士の人間関係もありますので幼稚園側から声掛けをしたりもします。幼稚園は保護者同士、職員が毎日顔を合わせるので声も掛けやすいと思います。

【座長】

保育園、幼稚園、学校のいずれも子供をどう育てるかという問題だけではなく、保護者との関係や保護者にどう啓発していくかなども提言に取り入れられればと思います。

つぎに、資料2-3について、いかがでしょうか。

【委員】

数年前、福岡教育大学で、保育園児・幼稚園児の体力テストについて、体育指導時間と実際の園児体力を比較した研究がありました。体育指導を週3回する園、体育指導を週1回する園、体育指導を全くしていない園の3つに区分し、体力テストをしたところ一番体力があったのは体育指導を全くしていない園で、1番体力がなかったのは体育指導を週3回する園でした。いろいろ原因はありますが、決まったところで、決まった時間、決まった動きをしても体力には結びつかないということです。今の子供たちは生活の中で体を動かさない、仲間と走り回ったりしていないということが決定的な要因になっていることを考えると、体育授業やクラブ活動強化というよりは子供たちを自由に駆け回らせるのが一番いいのかなと思います。これは幼少期には確実にそういうことが言えます。体育指導をしているので安心してしまい、子供を遊ばせていな

いという欠点だと思います。体育指導をせず自由に遊ばせていると子供は駆け回り体力が身についてくるということです。これは小学校以上でも少し考慮すれば良いかと思えます。

【座長】

子供が動ける環境の問題が出てきますね。

【委員】

時間的、空間的環境の問題が一番大きいと思います。

【委員】

私の近くの学校では学校が開放されていませんが、学校開放があればいいのと思っています。ボールなどの使用も禁止されており、高層マンションから降りるのが面倒で出ていけない子もいるなどという話も聞きますが、子供は遊ぶことが一番大事なことだと思います。

【委員】

学校の校庭は運動に不適な場所だと思います。平らな場所を走っていても面白くないですから。山や林があれば一番いいと思いますが、全国的な体力検査を見ると一番足が速かった児童は山の上にある学校の児童でした。社会的に子供のことを考えている国はそういうところを作っています。学校だけではなく積極的にそういう場所を作らないと体力までは結びつかないと思います。

【委員】

体力の問題について私の考えですが、公園の遊具でも、危険なものはすべて撤去して、安全性が第一になっている。イベントなんかをしても保険に入らないとイベントを開催できない。けがをした場合どうしてくれるのかということが先になるわけです。昔の子供は駆け回りましたが、今は危険を一番に考えますから難しいです。親の考え方を変わってもらうより仕方ないと思います。やはり家庭教育が大事ななとなってしまいます。

【委員】

体力が下がることによって何か実際に問題が起きているのでしょうか。小学校、中学校で一生懸命運動しても、社会人になって運動している方は少ないと思います。それでも皆さん社会人として生きているので、それほど問題ではないと思います。地形の話がありましたが、ある建築家が設計した埼玉県の小学校では、校内に坂道を多く

作ったり、角を全て無くして丸くしたり、小川を作り体験学習にも利用するなど施設面で環境の工夫をされています。練馬区においても施設面で何か考えはありますか。

【事務局】

練馬区内は敷地に余裕がある学校は少なく、新たに何かを行うのは難しいと思います。特に、選択制の関係から、中学校などでは広いグラウンドがあるかクラブ活動ができるかなどが注目されています。また、校舎内も、様々な用途の教室も増えてきており、余裕がない状況です。敷地や施設に限りはありますが、屋上を利用した緑化など、環境面で、できる限りの努力をしているところです。

【委員】

ビオトープは練馬区でも学校によってですが盛んに行われていると思います。施設の敷地制限がありますからすべての学校では難しいと思いますが。第二校庭として竹林や池のある場所もあります。ただ、安全面から、危険性もありますので、環境学習のときだけに利用するなど、常時開放はしてないという状況です。

【委員】

体力については小学校、中学校よりも幼児期が重要だと思います。6歳までに体のほとんどの動きが身につきます。4歳の入園児を見ると個人差が大きく、家でしか過ごしていない園児と外で走り回っていた園児では差が大きいです。世の中が便利になってきていることにより、子供は入園前に様々な経験が不足していると思います。

【座長】

体力の問題というのは、家庭や環境など色々な角度から見ていけないといけないということですね。どの地域でも同じような課題があると思いますが、練馬区がなぜ苦戦しているかはっきりしないとつぎの提言にはつながらないのではないかと思います。

【委員】

体力低下は問題ないのではないかという意見がありましたが、ある学校の先生がうちの生徒は体力がないと言われたことがありました。勉強ができない子は正しく座れないという話を聞いたことがあります。つまり腹筋と背筋が弱いので椅子に座れないということです。自分の子供の受験勉強を見ていると長時間椅子に座ることだけでも、やはり体力のある生徒が有利だと感じました。生きるエネルギーというのは体力が基本ということを考える必要があると思います。資料2-3を見ると全国平均は下回っていますが、東京都平均は上回っています。

【事務局】

東京都の中では練馬は高い方ではあります。

【座長】

東京都が全国で下から3番目か4番目なので、これで安心はできません。
資料2について議論してきましたが総合的にいかがですか。

【委員】

2極化が進んでいるような気がします。勉強においても運動にしても意識が高く積極的にやる子供と何も興味を示さない子供がいて、その差がどんどん大きくなってきていると感じており、問題だと思います。また、資料2-2の問21の結果に「挨拶や言葉遣いに対する意識は高い」とありますが意識は高くても実行されているかということが問題だと思います。意識があっても実際に実行できる子供を育てていく難しさを感じております。

【座長】

色々なご意見をいただきました。本日は、課題を把握して、解決の方向性を一定程度見出すということが目的でしたが、様々な意見をいただいたこともあり、ある程度方向性が見えてきたかと思えます。本日のところは、ここまでとさせていただきます。その他について事務局からお願いします。

6. その他

【事務局】

第1回目でしたが色々なご意見ありがとうございました。次回の日程は10月上旬を予定しております。相談の上、決定次第ご連絡いたします。

【事務局】

それでは第1回懇談会を終了いたします。ありがとうございました。

(終了)